



チームオレンジ善通寺だより

善通寺市では他市町に先がけて、「**チームオレンジ**」を結成しました。「チームオレンジ」とは、**認知症サポーター**（認知症について正しく理解し認知症の人や家族を温かく見守り応援する支援者）と**認知症の人や家族がチームを編成し、地域活動をともに進める住民グループ**です。「メンバーの誰もが楽しみながら役割を果たせるような思いやりあふれる会」をモットーに定期的に座談会を開催しています。ご興味のある方は、ぜひお気軽に地域包括支援センターまでお問い合わせください。

認知症研修会を開催しました

令和4年10月13日（木）午後、「**認知症をポジティブに！～できることに目を向けて～**」をテーマに研修会を開催しました。

前半は、行天クリニック院長、行天徹矢先生にトーク形式で認知症についてお聞きしました。先生は日々の診療のほか認知症サポート医として、**かかりつけ医の認知症対応力の向上を図るための相談・アドバイザ役として、また地域における支援体制構築のためご尽力されています。「認知症の診断や治療は認知症ケアの一部です。認知症ケアの大部分は家族やその周囲の方々の支えにより成り立っているため、地域の支援体制を作るために医療面から助言・提言をしていきたいと思っています。」**とおっしゃっていたのが印象的でした。

【認知症について】

- 認知症の有病率は、80歳で2割、85歳で4割、90歳以上では半数以上というデータがあり、高齢になると認知症になる方は多いです。
- 年をとると背中が曲がり、動作が鈍くなり、足腰が衰えます。目が疲れやすく、耳も聞こえにくくなります。歯も抜けてなくなります。多くの認知症もこれらのことと同様に、加齢による脳の症状で誰にでも起こることです。

【行天先生からのメッセージ】

認知症になっても、恥ずかしいと思わないでください。
 老化の過程で、早く認知症になるか、遅くなるかの違いです。
 いつか私もなります。
 認知症になってもくよくよせず、残った能力と家族や周囲の人々の支えにより、明るく、楽しく、頑張りましょう。



後半は、香川県グループホーム小規模多機能連絡協議会会長、岡部壽子先生より、**認知症の人の「やりたい！ できる！」**に向き合う介護現場での体験談についてお話しいただきました。利用者さんの様子や職員さんの関わりの工夫について、素敵な音楽やお写真を添えてお伝えいただき、会場一同、先生のお話とスライドに釘付けで心を奪われました。

介護サービス利用当初は険しい表情が多かった利用者さんが、職員の関わりにより少しずつやわらかい表情になられていく様子や自信に満ち溢れた表情で活動的に過ごされている様子がとても印象的でした。

関わりのヒント～岡部先生のお話を聞いて気づいたこと～

- ・ 家族や職員が対応に困るような「認知症の人の言動」について
⇒ ご本人の視点に立って、「なぜこんなふうに行ったんだろう？」、「なぜこんなふうに行動するんだろう？」とご本人の気持ちを想像し、関わり方を工夫する。
- ・ ご本人を理解するために
⇒ 生まれてから今までどんな家族に囲まれて、どんな環境で生活してきたのか、どんなお仕事をしてきたのか、趣味や特技は何かなど、ご本人のことを丸ごと知る姿勢が大切。
ご本人のほか、家族や知人に聞いたり、昔の写真や自宅の環境から情報を得ることもできる。



●○●○● 第6回座談会開催 ●○●○●

令和4年11月18日（金）午後、「第6回座談会」を開催しました。今回は新メンバーもまじえ、座談会参加のきっかけについてお話をした後、11月5日にグランドオープンした庁舎公園内を散策しました。この日は晴天で、少し冷たい風が心地よく、公園内でメンバーさん同士お話を楽しまれていました。



参加者の声

いつもほっこりした雰囲気
で会が進められ、参加すると
落ち着きます。

みんなが思っていることを自
由に話せて、心が落ち着くいい
会だと思います。

次回座談会は、令和5年2月8日（水）開催予定です。みなさまのご参加をお待ちしています。

善通寺市地域包括支援センター（高齢者課内）

TEL (0877)63-6364 FAX (0877)63-3778

Mail houkatsu@city.zentsuji.kagawa.jp